

令和4年度 学校評価報告書

学校番号(71) 長崎市立(為石小)学校

1 教育目標

たのしく めあてをもって しっかり学ぶ子供を育てる
 ー自ら学び、自ら考え、自ら行うー

2 学校経営方針

子供及び、地域の実態を踏まえ、学習指導要領にうたわれる「生きる力」を育むことを目指して新しい時代に必要とされる資質・能力の育成を図り、特色ある教育活動を展開する。そのために、全教職員で全ての子供を育てるという一貫した指導体制で、秩序ある学校作りと、たくましい心豊かな子供の育成に努める。

3 重点目標

- ・文章を正確に読む力を身につけさせる
- ・ICTを積極的に活用した学び
- ・学校・保護者・地域が1つのチームとして子供を育てる

4 自己評価

領域	項目	質問内容	アンケート結果			分析及び改善策
			(肯定的割合・%)			
			児童生徒	保護者	教職員	
学校経営	教育目標	教育目標を達成している	90	83	85	学校の雰囲気が楽しく明るいという回答した児童が9割以上という結果が得られた。しかし、教職員においては、昨年同様に組織運営や業務の改善において、まだ課題があるという回答を得た。
	学校の雰囲気	明るく楽しい雰囲気である	95	86	71	
	組織運営	校務分掌は責任体制が明確で、適切に機能している			77	
	業務の改善	校務の縮減・効率化等、業務の改善を推進している			69	
心の教育	生活・生徒指導	ルールやマナーを身に付けている	94	90	57	「ルールやマナーを身に付けている」という項目について、教職員の評価と児童や保護者との評価に大きな差が見られた。要求水準の差だと考えられるが、もう少しできる、できるようになるはずだと考えている教職員の期待も込められているのではないかと。他の「いじめ防止」「人権尊重」「平和の大切さ」「教育的ニーズに応じた指導」どれも児童評価で95%以上の肯定的評価だった。これからも取り組み続けなければならない。
		挨拶をよくしている	94	70	73	
		「あ・は・は運動」を知っている(小学校のみ)	87	73	71	
		教職員は悩みや相談に親身に対応している	98	83	100	
	いじめ防止対策	学校はいじめ防止のための対策をとっている	97	73	100	
	人権教育	生命や人権を尊重しようとする心が育っている	96	90	87	
	平和教育	平和の大切さを感じ、その思いを発信しようとしている	95	87	71	
	特別支援教育	学校は教育的ニーズに応じた教育を行っている	97	77	100	
確かな学力	特色ある学校づくり	伝統や校風、地域の実態に即した教育を行っている	95	73	79	「わかりやすい授業を行っている」という項目で児童評価で100%の肯定的評価だった。しかし、「家庭学習の習慣化」においては、児童と教職員との間に意識の差が見られる。この差を埋める取組が必要である。
	学習指導・教育課程	わかりやすい授業を行っている	100	87	100	
		家庭学習の習慣が身に付いている	93	70	42	
	キャリア教育	将来の自立に向けて適切に指導している	90	70	92	
長崎のまちや自分の住んでいる地域が好きである		98				

健やかな体	保健・衛生	衛生管理に努め、健康に関する教育を行っている	95	90	100	コロナ禍の中学校では衛生管理や健康には十分配慮しているが、ゲームをする時間が多く、睡眠時間が充分取れていない児童が多くみられる。しかし、児童本人や家庭ではあまり危機意識を持っていない。
	体力向上	早寝・早起き・朝ごはん(基本的生活習慣)が身に付いている	86	73	71	
		体力向上に努めている	86	73	77	
	食育	食に関する教育活動を行っている	99	83	92	
信頼される学校	安全管理	児童生徒の安全に気を配っている	98	63	100	コロナ禍の影響で、地域や家庭との連携が充分にとれなかったことが反省にあがっている。
	情報提供	学校の状況は通信やHP等で知ることができる	99	70	93	
	PTA・地域との連携	学校はPTAや地域との連携がとれている	97	60	93	
	職員資質向上	研修が充実し、資質が向上している			86	
教育環境	環境整備	教育環境が充実し、整備されている	94	80	57	働きやすい職場環境づくりにこれからも取り組んでいかなければならない
	職場環境	学校は働きやすい職場づくりに積極的に取り組んでいる			86	

5 自己評価のまとめ(成果・課題・対策等)

今回初めて、保護者評価アンケートをGoogle フォームで行ったが、回答数が少なく、保護者全体の意識をつかめなかった。児童評価は全体的に高く、ほとんどの項目において、肯定的割合が95%を超えている。特に「教職員は悩みや相談に親身に対応している」「わかりやすい授業を行っている」「児童の安全に気を配っている」という項目が肯定的評価98%以上と児童が教職員を信頼していることがうかがえる。教職員アンケートでは、「ルールやマナー」の定着や「家庭学習の習慣化」といった課題が浮き彫りになった。これからも引き続き、共通理解のもとこれらの会第二は取り組んでいかなければならない。

6 学校関係者評価

- ・児童の肯定的意見が多いのがうれしい。
- ・先生方は本当によく頑張っている。
- ・学校の取組が十分に家庭に伝わっていないのではないかな。
- ・担任の先生方や学校が取り組んでいることをもっと発信してほしい。
- ・2世帯家庭が増えて、生活に時間的余裕がなくなり、親子の会話が少なくなっているのではないかな。
- ・保護者が子どもの気持ちをわかっていない。正面から向き合っていないのではないかな。
- ・保護者の学校や子どもに対する関心や意識が年々下がっているように思う。

7 対策等の見直し(学校関係者評価を受けて)

- ・学校のホームページ等を使って、学校の取組をこれからも発信していく。
- ・コロナ禍で中止となっていた様々な地域行事を、できるだけ再開することで学校と家庭、地域とのつながりを深めていく。

※「4 自己評価」の「項目」欄には、領域毎に空欄を設定している。ここには、重点目標に即し、学校独自の「評価項目」並びに「質問内容」を追加することができる。

<参考例> 読書活動、豊かな体験活動、部活動 等

※「4 自己評価」のアンケートは、4段階で回答するようになっているが、そのうち上位2段階を肯定的回答ととらえ、その割合(整数値のみ)を集計する。